

旧井口家住宅長屋門



〔指定年月日〕昭和六一年八月二六日
〔種別〕有形文化財（建造物）
〔名称〕旧井口家住宅長屋門
〔点数〕一棟
〔所有者等〕杉並区教育委員会
〔所在地等〕大宮一―二〇―八（郷土博物館内）

旧井口家住宅長屋門

木造の寄棟造り、中央を通路とし、向って右を土間の納屋、左を板張りの蔵屋とする。桁行は一四・五六m（八間）、梁間は四・五五m（二・五間）で、中央通路を含めた面積は六六・二五㎡である。

門中央通路には八寸角（約二四cm）の親柱に饅頭金物・八雙金物で飾った扉、その右脇に潜戸が付く。

また正面の腰板は下見板張り真壁納めとし、他は縦板張りで、軒は正面および両側をせがい造りの天井にしている。

この長屋門は江戸時代後期（文化・文政期頃と推定される）に、大宮前新田の名主の家柄である井口正一家の表門として建てられたものである。当時の農村社会において村役人層がいかにか格式を重んじたかを示す貴重な資料である。区内では井口容宏家の長屋門（文政一一年（一八二八）建）とともに数少ない遺構である。

【文化財所在地】

